

広報



かわにし

平成元年 11/10 No.375

〒948-01 新潟県中魚沼郡川西町大字水口沢12番地 (TEL 0257-68-3111)

(FAX 0257-68-3828)

発行 町長 南雲春雄 編集 総務課文書広報係 印刷 白南風社

(毎月10日発行)

人口の動き	
—11月1日現在—	
男	4,531 (-2)
女	4,593 (-2)
計	9,124 (-4)
世帯数	2,273 (-0)
()は前月比較	



秋色のなか 450人のマラソン大会

— 10月10日 —

第13回町民マラソン大会が、川西中学校グラウンドを
発着地点として開かれました。

大会参加者のほとんどは、児童・生徒でした。大会
主催の体育協会では、「一般の参加者は10人ほどと少
なく、ちょっと残念でした…」と話していました。

[大会結果は、7ページに掲載]



休日救急医

11月12日 至誠堂医院(西浦町) ☎52-3276

19日 池田医院(本町西) ☎52-2581

23日 山口医院(袋町) ☎52-2174

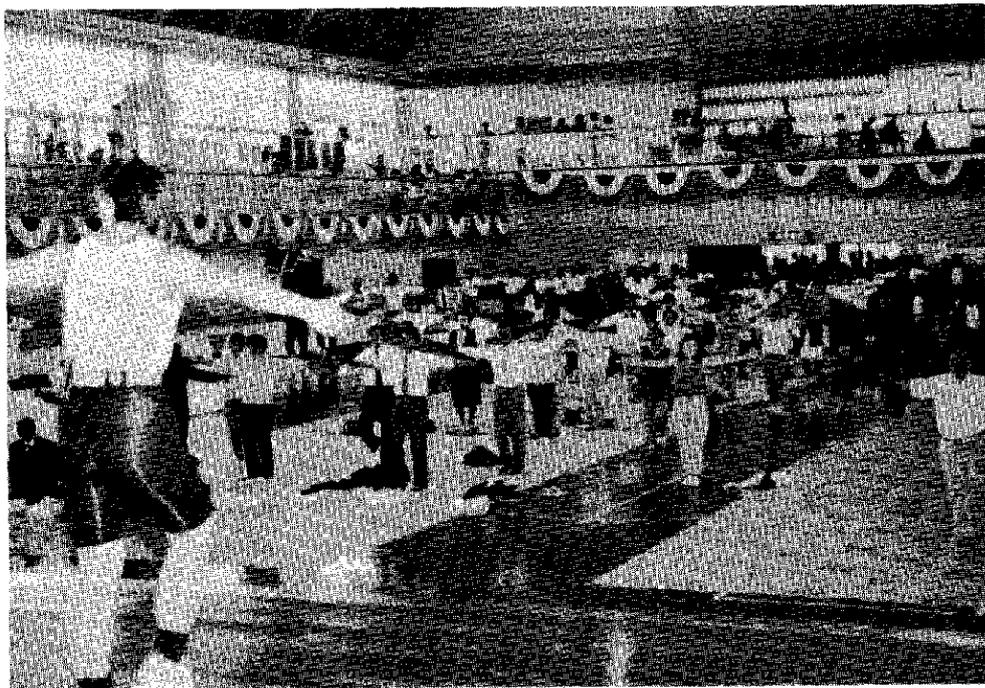
26日 中条病院(中条) ☎57-3018

12月3日 第二藤巻医院(上野) ☎68-2018

10日 庭野医院(寿町) ☎52-2711

健康づくり大会

スポーツで健康づくり町づくり



心も体もリフレッシュ、音楽に合わせてワン ツー スリー

十月一日、総合体育館で健康づくり大会が開かれました。当日は、総合体育館脇に完成した三面のゲートボール場の開設記念大会や、第二回町民つな引き大会などの催しがいっしょに開かれました。

午前十時からの開会式では、

ことし募集した、健康づくりシンボルマークの発表や、三十回以上の献血功労者、一年間家族全員が一度も医療機関を使わなかった、十七の健康家族などの表彰がありました。また、「エアロビックで健康づくりを」と題し、十日町市の

関口陽子先生から、音楽に合わせた軽い運動の実演指導がありました。会場いっぱい参加者は、気持ちよく手足を伸ばしていました。

去年の大会でも好評이었다

いた、無料おにぎり昼食会がありました。農協提供のコシヒカリ一五〇キロで作った、おにぎり三千個と、豚汁五四〇リットル(三百升)は、あつというまになくなりました。

表彰された方々 (敬称略)

● 献血功労者(数字は献血回数)

- 34回 島山 富雄(山野田)
- 33回 南雲フジノ(三領)
- 〃 山田 常夫(仁田)
- 〃 清水利枝子(東善寺)
- 32回 川崎 孝一(寺尾)
- 〃 山田 健一(仁田)
- 30回 登坂 恒宣(赤谷)

● 保健衛生功労者

- 金子 春枝 (岩瀬)
- 食生活改善推進員二十一年功労

● 体育指導功労者

- 川崎 定則 (朝日町)
- 体育指導委員二十一年功労

● 健康家族

- 遠田 正利 (朝日町)
- 櫃間 精一 (伊友)
- 上村 健三 (上野)
- 茂野倉之助 (〃)
- 星名 力男 (〃)
- 内山 重義 (新町新田)
- 若山 昭治 (〃)
- 藤巻 敏志 (寺ヶ崎)
- 佐藤 寅夫 (仁田)
- 藤巻 優 (塩辛)
- 増田喜八郎 (室島)
- 佐藤喜久治 (小脇)
- 小川 武良 (赤谷)
- 青木久三夫 (〃)
- 登坂 勝芳 (〃)
- 小川 武文 (岩瀬)
- 中村 静江 (大白倉)

健康づくり
シンボルマーク



入選者 清水里美さん
(川西中3年)



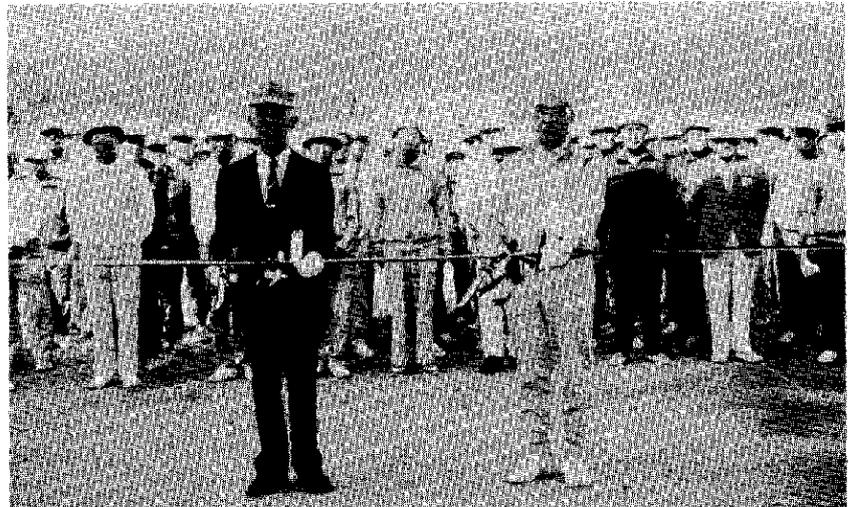
小学生高学年の部で優勝したSSC中仙田

第2回 町民つなぎ大会結果

- 小学生低学年の部
 - 優勝 SSC中仙田
 - 2位 千手小学校3年2組
 - 3位 三箇
 - ◇ 千手小学校3年1組
- 小学生高学年の部
 - 優勝 SSC中仙田
 - 2位 千手小学校5年1組
 - 3位 三箇
 - ◇ 千手小学校6年
- 一般の部
 - 優勝 木落A
 - 2位 オール仁田
 - 3位 白倉
 - ◇ SSC中仙田

ゲートボール大会結果

- 優勝 野口
- 2位 山之根、伊友
- 3位 小白倉白鷺会



ゲートボール場でのテープカット (高橋老人クラブ会長(左)と南雲町長)

健康ウルトラクイズ

当選者(一般の部)は、ペアで松葉荘1泊ご招待

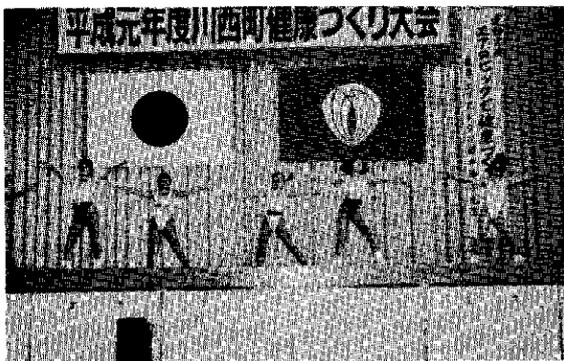
町内の全世帯にお配りした健康ウルトラクイズには、561通の応募がありました。全問正解の方々の中から、抽選で小学生の部は、柄沢孝洋君(千手小)、一般の部では、沢口茂利さん(上野)が当選しました。一般の部の問題と正解(文頭に表示)を紹介します。【 】は、解説です。

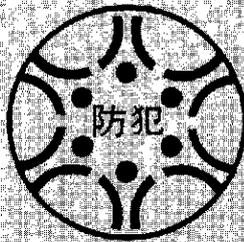
- ×問1 住民検診は、健康であれば受けなくて良い。【健康に自信があっても、年1回は必ず受けてください。】
- 問2 ミ薄口しょう油は、ミ濃口しょう油より塩分が多い。【濃度の薄いのは、減塩しょう油です。】
- 問3 ビタミンCは、リンゴより柿に多く含まれている。
- ×問4 日本人の死亡原因のトップは、脳卒中である。【死因のトップは、がんです。】
- 問5 ごはん一杯のエネルギーを消費するには、約30分の歩行(普通歩行)が必要である。
- 問6 低血圧の人でも脳卒中になる。
- ×問7 日本酒やビールを飲むより、しょうちゅうやウイスキーの方が太らない。【しょうちゅうやウイスキーの方が、カロリーが高い。同じ量なら高い方が太る。】
- 問8 レモンは、アルカリ食品である。
- 問9 人間の血液量は、体重の13分の1から10分の1くらいである。
- ×問10 栄養・運動・睡眠は、健康づくりの三本柱である。【正確には、栄養、運動、休養です。】

コシヒカリ
おりぎりは
とっても
大好評



インストラクターの
エアロビク実施





防犯

町防犯組合（組合長・南雲町長）では、秋の全国防犯運動に合わせて、町内の児童・生徒を対象に、防犯標語を募集しました。

あらかじめ、各学校で5点前後を選んでいただき、集まった作品37点の中から、次の4点が選ばれました。

最優秀作品は、防犯標語看板に記載され、総合体育館裏の幹線道路付近に設置されています。

最優秀

防犯は幼い子供のしつけから

川西中二年 春日正史君

佳作

ゆうわくはあなたの心のすきまから

川西中二年 羽鳥久美子さん

同

親と子の会話で広まるすてきな心

千手小六年 春日麻由美さん

同

きれいな心自分の未来も考えて

千手小六年 高橋梢さん



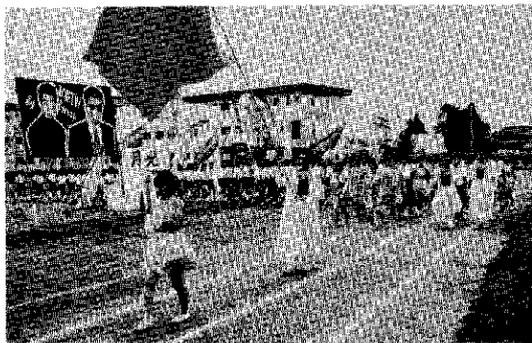
秋の全国防犯運動の初日(10月11日)に建てられました。

前方の集落は元町、右に幹線道路が走っています。

11月11日～17日

税を知る週間

中学生の標語入選作



川中体育祭 (9.10)

税いかしきれいで住み良い町づくり

三年 小林正樹

実りあるあすの未来を作る税

三年 星名聡

消費税社会参加の第一歩

三年 沢口友紀

税金は明るい社会の立て役者

三年 小野塚祐介

将来の福祉のための消費税

三年 星名徹

(佳作)

三年 丸山裕子 野沢尚美 小

鳴昌子 高橋太樹 山岸智和

押木章子 高橋宥子

二年 相崎文幸 茂野淳一 高

橋香織 齋木由香

一年 清水奈保子 金子亜由美

蔵品芳一

作文の部

(入選)

昔と今の税のちがい

二年 水品円

(佳作)

「消費税」この言葉を初めて聞いたとき

三年 渡辺千恵子

同佳作

あなたの税暮らしと福祉に生きている

二年 水品円

町租税教育推進懇談会

(入選)

人のため自分のためにも納税を

一年 高橋博美

10月25日、26日の両日、第14回フレッシュバレーボール大会が開かれました。

参加は22チーム総勢200人あまり、町内会や部落、仲間同志といったチームがほとんどです。練習量は、学校の体育館や、総合体育館を利用して十分といったところや、ぶっつけ本番組など様々のようでした。

試合開始は、午後7時15分。日頃のスポーツ離れを少しでも解消…？ 試合の終わった後が大いに楽しみ…？と、カラフルなスポーツ着で総合体育館に集合していました。

試合は、男女混合の6人制です。男子は、35歳以上で出場できるのは2人まで、女子はフリーです。ネットの高さは、普通のバレーより少し低く、バスケットボールほどの大きさで、柔らかいボールを使うのがフレッシュバレーの特徴です。

表彰は、1位から3位までに賞状を差し上げるだけです。でも、春と秋に恒例となったこの大会には、いつも20チーム以上が出場するといった根強い人気があります。参加した方に、楽しさの秘密を聞いてみました。

ボールが柔らかく、普通のバレーと違って気軽にできます。スピードがなく、怖くない。仲間とやるのが楽しい。普段スポーツをやっていなくても、すぐにやれます。終わったあとの一杯が、何より楽しみ。

などと、いろいろなお話でした。

けがもなく終了した大会結果は、つぎのとおりです。仲間を見つけて、あなたも来春はぜひ参加してみませんか。

優	勝	SSC・A (赤谷)
2	位	SSC・B (中仙田・室島)
3	位	沖立
〃		中島町



フレッシュで仲間づくり

やってみませんか

第一ゲート通過が勝敗のポイントです



ゲートボール

GB大会

『第1ゲート通過』
本番は緊張します

優	勝	一分団A
二	位	白倉A
三	位	二分団A
四	位	三分団

参加チームは、三十一チームおおよそ二百二十人あまりと、町のスポーツ大会では、最大級のものとなりました。大会結果は、次のとおりです。

午前九時からの開会式は、まがまずの天候でしたが、予選リーグ第一試合半ばで、突然の雨となり、その日は中断しました。再開は二十六日、真夏を思わせる天候のもと、橋運動場で開かれました。

十月二十三日、庚塚運動場で第二回町民ゲートボール大会(主催・町GB連盟田村才一郎会長)が開かれました。



選手宣誓は二分団 明朗会の佐藤ツネさん

天保・弘化時代の村

岩瀬金子幸作

村役人

「柏崎日記」をお読みくださった方々から、天保・弘化時代の村や世相、用語についてご質問をいただいている。

村役人というのは庄屋(肝煎、きもいり)、組頭、百姓代のこと、この三人を村方三役と呼んだ。庄屋は家柄の高い者の中から選ばれ、領主と村民側の接点の役になった。組頭は重立の交代制で選出され、庄屋の事務を補佐した。百姓代は庄屋と組頭の職務を監視し、年貢の賦課や納入に立ち合い、村入用の金の使途について注意した。

大肝煎と内組頭

山谷組には、二〇カ村の庄屋をたばねる大肝煎(大庄屋)が置かれていた。山谷の酒井家が大肝煎、上野の星名家が大肝煎格で、ともに名字帯刀を許された名門であった。村役人の中には名字帯刀、名字だけ、帯刀だけを許される者があった。

一五の集落が一村で支配された仙田村では、村役人とは別に

各集落に内組頭が置かれている。

先触れと役人の接待

柏崎陣屋の役人が旅行するとき、前日に先触れを出して通過地や宿泊先、用務や到着予定の日時を知らせている。触れを受けた宿や村々は、人馬や駕籠(かご)を揃えて役人を出迎え、必要があれば宿泊や賄いの準備をした。

渡辺平太夫は、食事等の接待を受けるに当たって、村の衆にめいわくをかけないように気を使っている。「御仕置五人組帳」の御条目とおして、たてまえとしては、村々に次の事項が徹底していたからである。

役人が廻村の節、百姓共の馳走になれば村々の出費がかさむゆえ、必ず弁当を持たせて出す。やむを得ず馳走になったときは、飯、塩、味噌、野菜等の実費を本人に支払わせる。

指し図しないのに、村の衆が酒やさかなで接待したときは曲事(まげごと、お叱り)に処する。

役人には、金、銀、銭、米、

衣類、諸道具、酒こうなど、軽い品であっても音物してはならない。

旅籠(はたご)と茶屋

特別に認められた者や、役人が公用で旅行するときに泊まる宿を旅籠屋といい、施設に余裕があれば私用の旅人でも休泊を許された。公用の休泊費は安価に決められていたため、いつしか、私用の旅行者を客引きして利を得るようになった。天保十三年(一八四三)に、売春もした飯盛女を抱えることが許されていた旅籠屋は、飯盛女二人までは、一人につき一カ月銭六十八文を宿役人に差し出して営業している。

公用者が道中で休息する場所を茶屋といい、街道の要所で店を開くことが許されていた。

大変だった助郷役

特権階級や役人が道中するときに、近在の村々が送迎や荷物運びに使役せられることを助郷といつた。文久二年(一八六二)の、和宮御降嫁のさいの助郷はその代表的なもので、川西郷の全村に木曾谷へ行けとのお達しが出て大騒ぎしている。

旅行者は行楽のシーズンに来ることが多く、この季節は春秋

の農繁期で、助郷役を命ぜられた村々は大変に迷惑した。

本馬・軽尻・乗掛馬

馬を使ったときの駄賃銭は、街道の宿駅ごとに定められている。本馬は、荷物一駄分を目方四〇貫目(一五〇キロ)までとした。軽尻は人が乗る馬で荷物を五貫目(約二〇キロ)まで付けてもよかつた。人が乗らない場合は、荷物を二〇貫目(七五キロ)まで付けて軽尻とした。渡辺平太夫が千手で乗った乗掛馬は、人のほか荷物を二〇貫目まで付けてもよいとされており、駄賃銭は本馬と同様であった。

一年が十三カ月

明治五年(一八七二)まで使われていた曆は、月が地球を一周する期間を一カ月とした太陰曆である。大の月を三十日、小の月を二十九日で調節したが、これでは太陽の進行と合わないため、十九年間に七回のうるう月を置いた。したがってうるう年は二年か三年に一度あり、その年は、一年が十三カ月になった。

太鼓と鐘と線香

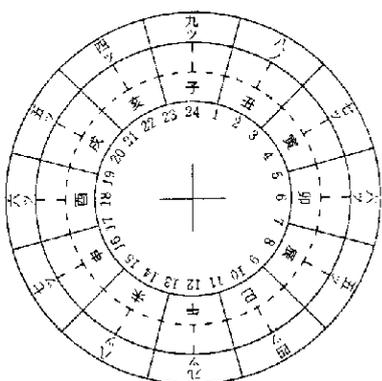
古来、一昼夜を十二に分け、これに十二支の名を付けて時刻

に用いる法が行われた。たとえば、午後十二時から午前一時までが子の刻で、一刻は二時間になる。渡辺平太夫は五ツ、四ツなどと時刻を記しているが、これには次の理由がある。

昔は、子(ね)と午(うま)の時刻に九ツ、丑(うし)と未(ひつじ)に八ツ、寅(とら)と申(さる)に七ツ、卯(う)と酉(とり)に六ツ、辰(たつ)と戌(いぬ)に五ツ、巳(み)と亥(い)の時刻に四ツ、その数を太鼓で打って刻を知らせた。丑と寅の間など、四刻の区切りには、城内や寺や宿駅でその数だけ鐘を鳴らしたが、必ずしも正確とはいえなかつた。

百姓の田人(とうど)や芸者衆は、休息や勤務時間を線香の燃焼で決めている。田人が昼休みのとき、夏は戸を開けると線香が早く絶え、閉めれば暑くて昼寝ができなかつたという。

時刻表



『戸籍の窓』に

一喜一憂

東村山市 片桐 勇さん
(小白倉出身)

日増しに秋らしくなりました。お忙しいことと存じます。毎月「広報かわにし」をお送りいただき厚くお礼申し上げます。町の出来事すべてを、手に取るように知ることができ感謝しております。

開封して気になるのが「人口の動き」です。農村の嫁問題、「うぶ声」、「たかきこ」、「ごめい福」を、一喜一憂しながら拝見しています。

先祖伝来の土地や家を捨て、その地からはなれなければならぬことは、いくら時代の流れ



(敬称略)

一般寄付

東北電力㈱

街路灯 二灯

広報発行に

賀山かほる(土浦市) 五千円

広報紙で故郷に居る思い

横浜市 川崎 広夫さん
(室島出身)

広報紙の編集、発行にご努力くださいます皆様には、いよいよご健勝のことと存じます。毎月の広報、有り難く拝見しています。見事な取材、編集に、ただただ感服し、開封するのにもどかしい気持ちです。それぞれの分野を、ページごとに見易く編集してあります。次々にページをめくる楽しみは、皆様もご同様と幸いです。

横浜に移り住んでから二十五年経ちました。幸い、広報のおかげで生まれ故郷の様子を居ながらにして知ることができ、喜んでいきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。



京都・清水寺で(昭62・5)

とはいえ、涙の出る思いではないでしょうか。子供の将来を考えると、そこには住めないのかも知れません。でも、一軒また一軒と消えていく村の光景は、悲しいことです。

町でも、特に道路の整備には配慮くださっているようです。今後、一層ご尽力くださるようお願いいたします。

村をはなれて三十五年、田舎ほど尊いものはないように感じます。

川西町の発展を心からお祈り申し上げます。

平成2年度 幼稚園児・保育園児

入園申請受け付け

11月10日(金) ~ 25日(土)

申請書に添える書類(用紙は、幼稚園か保育園、役場福祉係にあります。)
勤め人のいる家庭は、事業主発行の勤務証明書

注意していただきたい事項
心身の障害などで、団体生活のできない児童は、入園できないことがあります。
家庭状況をお尋ねします。申請書は、直接、家族の方がお持ちください。
現在、入園中で引き続き入園を希望する児童も、申請してください。

募集人員と申請書提出場所

幼稚園	募集人員	入園区域	申請書提出場所
幼稚園	人	(ただし全園通園可能)	役場窓二
幼稚園	5歳児	60	千手野
幼稚園	3歳児	45	南原
幼稚園	2歳児	70	上野
幼稚園	1歳児	30	橋
幼稚園	0歳児	45	仙田

問い合わせ先

保育園は、役場福祉係
幼稚園は、教育委員会

埼玉県坂戸市

鈴木 スズイさんから

拝啓 いつも「広報かわにし」を、懐かしく、また楽しみに読ませていただいております。

皆様のお心の深さに心からお礼申し上げます。年を重ねますと、一人、二人と世を去られる方が目につきます。そんな中に

一緒に学んだ友の名前を見ることがあります。悲しいことです。が、広報のおかげで消息を知ることが出来ます。

ほんとにありがとうございます。きょう送金しましたので、よろしくお願い申し上げます。

日一日と寒さに向かう季節です。どうぞ皆様お体に気をつけてお過ごしください。

山村留学

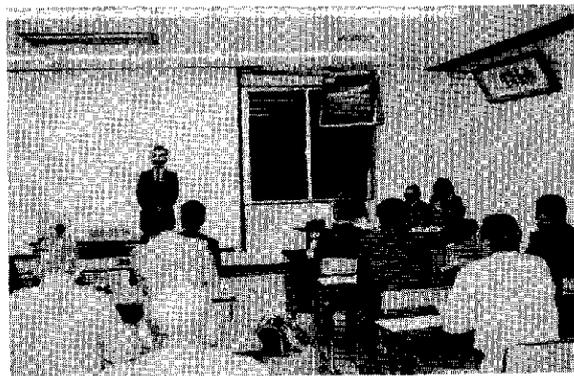
大地に触れながら

大地に学ぶことなのです

十月十二・十三の両日、財団法人「育てる会（青木孝安理事長）」の一行が、町の依頼で、川西町での山村留学の可能性を調査に訪れました。

山村留学については、議会の一般質問で取り上げられ、教育委員会では、先進地の視察など研究を進めていました。

この財団法人「育てる会」は、



講演をする青木理事長

全国に六カ所の山村留学センターを開設している組織です。県内では、昭和六十二年から松之山町に学園を開設しています。十二日夜、活性化センターで開かれた講演会で、青木理事長は、山村留学の概要を次のように話されました。

昭和四十三年に、何人かの親から子供を都会だけに置かずに、自然の中に連れて行って欲しいということから、山村留学が始まった。

その後、長野県八坂村にセンターを建設し、長期（通年）の山村留学がスタートした。山村留学を成功させるには、地域のみなさんの情熱、協力が大切だ。行政に協力してやっている、と思っているところは成功しない。

十年、二十年といった気の長い仕事だ。山村留学を取り入れたところは、非常に活性化できたと思う。自分たちのふるさとを思い、精神活動を通じた活性化で意義のある仕事である。

ちいさな展覧会

仙田小学校

16



4年 高橋智美さん



1年 にわさとる君



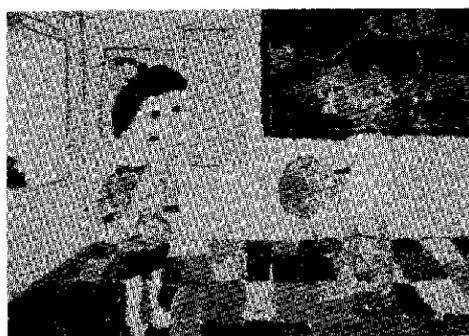
5年 小林健一君



3年 高橋新君



6年 高野和葉さん



2年 丸山良亮君



3年 南雲 貢君



4年 南雲大輔君

(12月号は白倉小学校です)



十月六日、総合センターで十日町保健所主催のキノコ講習会が開かれました。百八十人ほどの参加者は、朝から二六公園ブナ林や、モトクロス場付近でキノコを採取し、十一時からの鑑別に集まりました。

かごに入れられて大切に運ばれたキノコは、九十種類ほどでした。鑑定には、日本菌学会員の布施公幹先生（柏崎・刈羽小学校長）があたり、次々に名前

90種類が集まった キノコ講習会

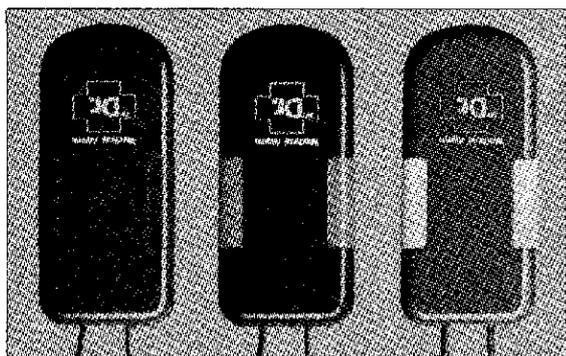
と「毒」「食」の別が表示されていきました。猛毒のもの、見た感じは毒キノコでも食べられるものなどさまざまでした。

会場では、キノコの名前あてクイズも開かれ、正しい名前と食べられるかどうかで紹介されていました。

また、初めてのキノコ料理コンテストも同会場で開かれ、「キノコのクリーム煮」、「キノコサラダ」など十種類の新しい食べ方が紹介されていました。

火事・急病 24時間 ひとり暮らしでも安心

急病、ケガの通報に使う
ネックレス式発信器



六十五歳以上のひとり暮らし老人は、現在四十五人います。もしも、火災や急な発作、ケガなどのときには連絡する方法がなく、ひとり暮らしの方々は大困っていました。

そこで、町では県の補助事業で、緊急通報システムを導入し、まもなく使えることになりました。

民生委員を通じて、希望をとりまとめ、二十五人の家にこのシステムが入りました。

このシステムは、電話回線を通じて警備会社と、二十四時間結ばれています。

今回導入したものは、火災をキャッチする感知器と、押し売りや強盗など、身の危険を感じたときに使う非常ボタンが取り付けられました。

また、急な発病や発作、ケガのときに使う、重さ四〇グラムのネックレス式発信器があります。

これらの異常が発生したときは、玄関先のライトが点滅し、同時に、町に駐在している警備会社の職員が、直ちに駆けつけることになっています。

平成2年度 県立十日町高等職業訓練校 訓練生募集

科名 織物工芸科 二十人
染色工芸科 二十人

応募資格 高等学校を卒業された方（来春卒業見込者を含む）で、色覚に問題ない人。

訓練期間 一年

選考日時 各月の第四金曜日

問い合わせ先

県立十日町高等職業訓練校
電話 五七一一〇五

戸籍の窓から

うぶ声—おすこやかに

小幡 輝 忠雄 長男 仁 田

蔵品麻弥 眞由美 三女 四郎兼

村越千恵子 吉明 長女 野 口

馬場健介 繁信 二男 朝日町
美恵子

たかさご—「円満に

登坂 隆 赤谷

松阪 充乃 奈良県から

上村 藤雄 上野

（ペニー・テレシターフィリンから

白井 晃 寺尾

（エンリクス・クリスチーナ
フィリンから

昇天—「こめい福を祈る

渡邊みち子 56 (理平) 四郎兼

星名 弘一 66 (本人) 伊友

数藤 静江 70 (雅友) 沖立

茂野藤太郎 77 (正義) 室島

増田 壮吉 77 (博史) 室島

山岸 常良 80 (本人) 霜条

押木 タカ 80 (英二) 発電所通り西

樋口 ミチ 87 (虎二) 田 戸



かわら 俳壇

太田白南風選

蕎麦刈の拾い日和のはや西に
一つづつ除くほかなし草じらみ
晩稲まだ残る峡田の続きけり

野口 野沢 寅生

この先きの尾瀬に連なる山紅葉
短日の菊つむ妻のいそいそと
句心のゆきつ戻りつ秋の道

上野 内山 寛平

出稼ぎの近づく畑の桐圍う
立てかけし大豆はじける秋日和

小白倉 田中 優美

母逝きて小豆の殻をそのまゝに
葬いの道に続ける赤のまま

中仙田 高野仙舟子

輪台をかけて花まつ菊づくり
豆つぶてとんで秋日に豆落す

小白倉 江口みゆき

十三夜野沢の出湯の窓にあり

長雨に稲架多き道つづきおり

仁田 小幡しん女

見過して振返る島紅葉舟

群落の松の中なるななかもど

霜条 星名 星光

箱根山越すロープウェイ紅葉山

庭木みな雪囲いして冬隣

高倉 斉木 和人

稿田の濃淡のあり起伏あり

四方の鴨に瓢湖の占めらるる

三領 水品 律

細々と残る山路の野菊かな

芒野や旧街道の岐路に立つ

大倉 中条 石平

トンネルを抜けてふるさと杣の秋

足立区 山形 頼太

山なみを浮かせて消えし遠花火

伊勢原市 金子 桂吉

大仏の慈眼見上ぐる古都の秋

浦和市 登坂 博史

丘の町暮れコスモスの花明り

府中市 野口 東風

初しぐれ庭の鶏頭燃えさかり

三領 高橋たかし

杉落葉乗せて揺れおりそはの花

岩瀬 小川 益業

日だまりの木犀の香に立ちどまり

練馬区 須藤 遊人

芋の露吹きこぼしたる野分かな

上町 高橋 頼似

野菊にも色とりどりにあるものと

八王子市 田中 ひさ

あたたかき秋日干物多かりし

上野 入沢 はや

秋深し井戸水の手にあたたかき

小脇 佐藤 信一

鯉およぐ池水のおく澄みわたり

野口 村越 幸

遠山の冠雪を見し朝の時

木落 丸山鉄四郎

小菊咲き内庭暑き秋日和

八王子市 松浦 サク

新米に便りを添えて荷を託す

中屋敷 数藤 壮一

健康は部落ぐるみで

ことし新しく沖立と、元町部落が、健康づくりモデル集落に認定されました。

このモデル集落の認定事業は、ことしで二年目になります。

この事業のねらいは、健康についての意識を高め、健康な体を部落ぐるみで作ってもらいたいということです。そして、健康モデル集落になってもらうことです。

沖立の食生活改善推進委員と、母子推進委員にお話を聞いてみました。

◎健康についてどう思いますか。モデル集落の認定を受けて、健康ということを再認識しました。

た。でも、認定されたといっても何をすればよいかかわからず、とまどっています。「健康」は大切なことですから、一生懸命に取り組みたいと思っています。

◎これからの計画は…健康づくりには、まず食事からということで、調理実習をやりたいと思っています。また、町の住民検診の結果などを参考に、みんなで勉強したいと思っています。

それから、十一月には、乳がん検診を予定しています。また、冬期間の健康管理ということで、血圧測定を計画しています。

太り過ぎの人が大勢います。楽しく体を動かす、レクリエーションダンスなどもいいと思います。

どんな検診でも、受診率が低いので、いろいろの検診の前になつたら、一人でも多くの人が受診されるように、ひと声をかけることをしたいと思います。

何をやっても、集まってくれる人が少ないのが、一番の悩みです。もっと、健康について一人ひとりが考えてもらいたいです。



調理実習をかねた健康づくり座談会(10・27沖立部落センター)